

## <投資の裏側>

### 乖離が目立つ日経平均株価とTOPIX ～語られざる投資の真実⑮～



「投資INSIDE-OUT」～語られざる投資の真実～では、マーケットでは知られているもののハッキリとは語られない、でも投資をする上で大切なことを考えていきます。

### 日経平均株価は、「バブル崩壊」後の高値をうかがうものの・・・

日経平均株価は1月14日、2018年1月以降で3度目となる24,000円台を回復しました。バブル崩壊以降の高値(24,270.62円)更新が視野に入ってきました。

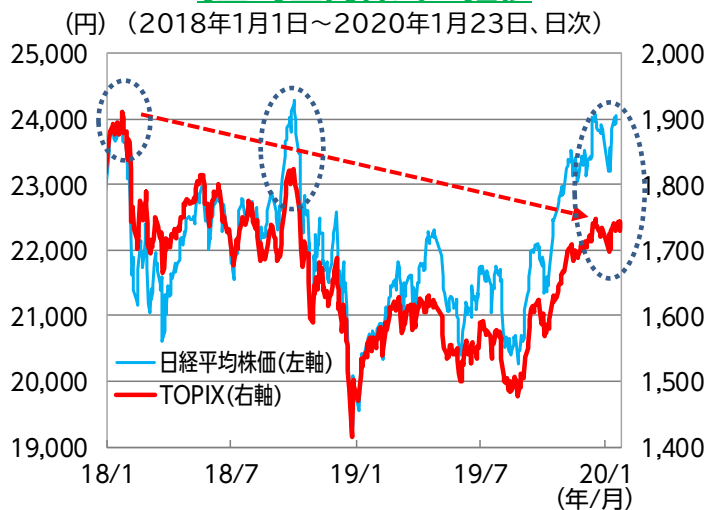
一方、TOPIX(東証株価指数)の1月23日終値は1,730.50で、2018年1月高値(1,911.07)や同年10月高値(1,824.03)を大きく下回っています(図1)。

TOPIXは2018年1月高値から▲9.4%と大きく下落しているのに対し、日経平均株価の下落率は▲1.4%と横ばい圏内にとどまっている要因は、**業種(セクター)別のリターン格差の大きさ**です。

TOPIX内の構成比が日経平均株価と比べて相対的に大きい**銀行業や自動車関連などの輸送用機器は大幅に下落しました**。日経平均株価内の構成比が相対的に大きい電気機器の下落は小幅となっています(図2)。

さて、先行きもこうした乖離は続くのでしょうか？

【図1】国内株式の推移



【図2】TOPIXの業種別リターン

(2018年1月23日～2020年1月23日)

(%)	リターン	TOPIX 構成比	日経平均株価 構成比
電気機器	▲5.6	14.8	21.3
輸送用機器	▲18.4	7.7	3.9
銀行業	▲32.0	5.6	0.6

※TOPIX、日経平均株価構成比の基準日は2020年1月23日  
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセット  
マネジメント作成

足元の株式市場は、主要指数の過去最高値更新が続く米国が「けん引役」となっています。米国では、大型ハイテク株の収益力や利益成長への期待、低金利環境の長期化観測が強気心理を支えています。



こうした中、当面は半導体や電子部品を抱える「電気機器」には追い風、低金利やマイナス金利の継続は「銀行業」の逆風となりそうなことは否めないようです。

**当面は、対TOPIXで日経平均株価の優位が続きそうですが、相場は行き過ぎると必ず「反動」が来るもの。そうした潮目の変化に対しても感度を高められるとよいですね！(超乾)**



#### 【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。